



## 1年間のまとめをしよう

校舎前の庭に作られた“かまくら”がようやく融け、日中の陽射しに春の訪れを感じる季節になりました。今年度も残すところ1ヶ月となり、いよいよ1年間の総まとめの時期に入りました。

2月14日（水）の朝礼で、今年度行われたチャレンジテストの3教科連続満点者の表彰を行いました。対象者は全校で39名おり、各クラスの代表者を通して全員に賞状を手渡しました。



チャレンジテストは国、数、英3教科の基礎的・基本的な内容を一週間くらいの期間に集中的に学習し、その定着を図るものです。あらかじめ出題内容を知らせているので、誰もが見通しをもって学習に取り組み、成果を得ることができます。でも、一つもミスをしないととなると、けっこう難しいものです。ですから、表彰を受けた39名の皆さんの努力を心からたたえたいと思います。

さて、惜しくも満点を逃してしまった生徒の中には、あの一問さえ間違えなければ…と悔しい思いをしている人もいないでしょうか。今、韓国のピョンチャンで行われている冬期オリンピックに多くの国民の注目が集まっています。日本選手の活躍については、男子モーグルの原選手の銅メダルを皮切りに、待望のメダルラッシュが訪れました。ジャンプの高梨選手、スピードスケートの高木選手や小平選手、複合競技の渡部選手、スノーボードの平野選手と次々に続きます。しかし、金メダルがなかなかとれない。あと一步というところまでがんばっているのに…。

金メダルを逃した選手たちの姿からは、悔しい思いこそあると思いますが、悲壮感を感じられません。きっとそこに到達するまでの取り組みの中で、やりきったという思いがあるのだと思います。

わたしは、スポーツの世界でも勉強でも同じことが言えるのではないかと考えています。がんばっているのになかなか結果が出ない、そう思っている人は自分自身の目標をもう一度問い直してみることが大切です。到達可能な具体的な目標になっているか、そして、目標に到達するためのアプローチはこれでいいのかということも考えてみてください。



わたしたちは、日々自分の行動について選択をしています。もう少しがんばってみようとか、今日はこれくらいにしておこうとか、そしてその選択の結果が積み重なって今の生活があるのです。残り1ヶ月の皆さんの生活が充実したものになることを願っています。

（3/14朝礼での話に加筆修正しました）

天城地区のこども園・小・中学校の連携

伊豆市では、子どもの成長を幼児期から小学生・中学生までの長い期間でとらえ、最終的に目指す姿を教職員が共有したうえで、それぞれの時期に育てたい力を明確にした教育を行っています。こうした考え方を一貫教育といいます。目指す子どもの姿や具体的な取り組みについては下のイメージ図でご確認いただけます。

学校等の施設は離れたところにあっても、教職員同士の連携や子どもたち同士の交流によって、一貫教育は可能です。期待されるもっとも大きな効果は、学校文化の違いに子どもたちが戸惑わないようにすることです。また、不登校などの学校不適応を防ぐことにもつながると考えられています。

今年度、天城地区では次の表のような取り組みが行われました。これらの活動は次年度も継続し、さらに発展させていくつもりです。

教職員の連携	子ども同士の交流
天城地区園長、校長会の開催（４回） 教員の異校種体験（こども園、小学校、中学校で相互に体験） 合同引き渡し訓練 くすのき学習と天城学習のつながりの検討（小学校、中学校）	バスの乗り方、体験通学（こども園、小学校） 夏祭り交流（こども園、小学校） 保育体験（こども園、中学校） 運動会等での交流種目（こども園、小学校、中学校） 入学説明会（こども園、小学校、中学校）

さて、今年の４月、土肥地区の小・中一貫校（義務教育学校）がスタートします。施設一体型の一貫教育を行い、最新のITC機器を備えています。まったく新しい学校として生まれ変わる土肥小・中一貫校に注目が集まっています。

伊豆市保小中連携イメージ図

